

●各遺跡の概要（国史跡「奄美大島要塞跡及び大島防備隊跡 附 大島需品支庫跡」）

大島防備隊本部跡（おおしまぼうびたいほんぶあと）

令和7年9月18日指定

大島防備隊本部跡は瀬戸内町瀬相（大島海峡の中央、加計呂麻島の瀬相湾一帯）に所在する遺跡です。

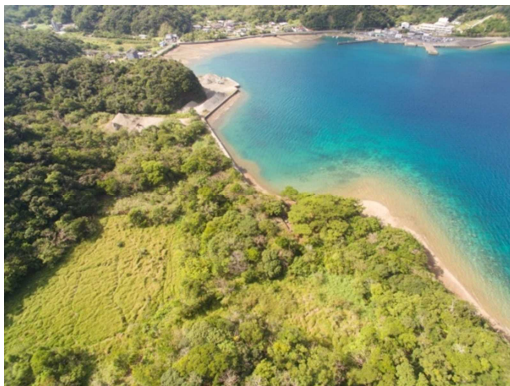
1941（昭和16）年に大島防備隊の前身である「大島根拠地隊」が編成され、瀬相に部隊が配備されます。翌1942（昭和17）年に大島根拠地隊は佐世保防備戦隊に編入され、「大島防備隊」として、陸軍の奄美大島要塞と連動し、大島海峡全域の防備を任務としました。

大島防備隊の管轄範囲（部隊配備地）は奄美大島、喜界島、口之島、宝島、沖永良部島と広く、そのため、瀬相には戦闘指揮関係だけでなく、物資保管・補給、通信、補修や修繕に関する様々な施設が建設されました。

現存する施設は、戦闘指揮壕跡、ドック跡、弾薬庫跡、土塁跡、待避壕跡、防空壕跡などがありますが、慰霊碑公園として整備されている区域のみ見学可能となっております。



※令和5年3月に作成したマップです。



大島防備隊本部跡（遠景）



戦闘指揮壕跡および旧海軍慰霊碑



戦闘指揮壕跡（入口）



戦闘指揮壕跡（内部）